

# 2017年こどものミサ説教

2017年10月8日、東京カテドラル聖マリア大聖堂

[\[聖書朗読箇所\]](#)

2017年の『こどものミサ』は、「主よ、救われる者は少ないのでしょうか」という、ルカによる福音書の言葉から採られ、副題は「今日 愛と優しさをもって」となっております。今日、一緒に、この福音書の言葉を学び、分かち合いをしたいと思っております。

イエスの一行は、町や村を巡り歩きながら、エルサレムに向かって進んでいました。すると、誰かが、「主よ、救われる者は少ないのでしょうか」（ルカ13・23）と聞いたとあります。

「救われる者が、多いか、少ないか」という問題に、主イエスは、直接お答えにならなかったような印象があります。そして、次のように言われました。

「狭い戸口から入るように努めなさい。言っておくが、入ろうとしても入れない人が多いのだ。家の主人が立ち上がって、戸を閉めてしまってからでは、あなたがたが外に立って戸をたたき、『御主人様、開けてください』と言っても、『お前たちがどこの者か知らない』という答えが返ってくるだけである。（ルカ13・24-25）

もし、わたしたちが、「お前たちがどこの者か知らない」と言われたら、困ってしまいます。どのような場面なのでしょう。

もしかしたら、もう、神様に向かう旅路が終わるとき、つまり、わたしたちが、この地上の生涯を終えて、神様の前に立つというときのことなのかもしれません。

わたしたち人間は、神様のみ心に従って、この世に送られてきました。そして、また、神様のところに戻る旅、長い旅、人によっては短い旅、途中、いろいろなことがある、危ないことがある、難しいことがある、よく分からないことがある、その旅を歩いて、神様のところへ向かう。そして、わたしたち人間は、いつか、死ななければならない。死ななければならないというよりは、死ぬことができると言った方が良いのかもしれない。

でも、もし、その最後の時に、神様から、「お前のことなど知らない」と言われたら、これは、非常に困ります。「よく来たね。よく頑張ったね。さあ、いらっしゃい。大歓迎だよ」と言ってもらいたいわけです。

どうでしょう。わたしたちは、そのように言ってもらえるのでしょうか。

わたしたちが、毎日、神様がお喜びになるようなことをし、何も悪いことはせず、

問題になることがなければ、胸を張って、「さあ、到着しました。わたしは立派に生きてきました」と言うことができるのですが、なかなか、そのような人はいません。もし、そのように言うとしたら、正直ではないと思います。

旧約聖書は、神様がお教えになった色々な掟、とくに大切な10のおきてである十戒を教えています。

「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」と言われました。そこで、わたしたちは、そのようにしようと頑張っている。しかし、そうであるとは言っても、みなさんがどうであるかは、わたくしには分かりませんが、わたくしなどは、とても、胸を張って、「わたくしは問題ありません。真っ白です」と言うことができない。いつも、「申し訳ありません。もう少し頑張ってみます」という気持ちでいます。

人間は、自分の力で、神様のお望みになることを、完全に果たすことはできないと思います。

では、どうすれば良いのか。わたしたちの救い主、イエス・キリストがおられます。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、誰も父のもとに行くことができない。」(ヨハ14・6)

逆に言うと、「わたしが一緒だから、あなたがたを、天の御父のところを連れて行ってあげるよ。わたしと一緒に来なさい。わたしに信頼しなさい。あなたが弱い者であり、罪を犯す者であるということを、わたしは知っている。それでも、わたしに信頼する限り、わたしに打ち明けて、一生懸命やりますと言う限り、あなたは、毎日、新しく生まれることができる」と言っていた。

ですから、やっと、神の国を完成する日、あるいは、天の御父がお住みになっている家に来て、門をたたいて、「開けてください」と言うときに、御子イエス・キリストが、いつも一緒にいてくださること、御子がとりなしてくださることを信じる人、何か問題があっても、「ごめんなさい。わたしにはこのような問題があります。でも、そのようなわたしを、神様は、赦し、大切にしてくださっています。それを信じます。神の愛を信じます。どうか、宜しく願います」という気持ちでいる人、そのような人が、「よく来たね。どうぞ、どうぞ」と言って、中に入れてもらえるのだと思います。

この、『狭い戸口』は、狭いからなかなか入ることができないと、よく言います。これは、イエズス様を知らない人にとっては、難しい。それは、狭いとか、広いとかという問題ではありません。

人間は、どんなに努力しても、神様のお望みになることを、全部果たすことはできません。できないということを分かっている人は、イエズス様の導き、イエズス様からいただく赦しを信じます。

わたしたちの教皇フランシスコは、『いつくしみの特別聖年』を行いました。

「『神様はいつくしみ深いかたである』ということをもっと深く、信じることができるように、毎日を過ごしましょう」という話がありました。そのことを、思い起こしましょう。

人生には、危険なこと、困難なことがあります。失望したり、絶望したりすることがあるかもしれない。そのようなときにも、復活したイエスが、いつも一緒にいてくださるように、イエスの霊、聖霊は、わたしたちと、いつも一緒にいてくださると、そして、いろいろな聖人の模範があり、聖人もいろいろな困難の中で、信仰を守り、主イエスとともに神さまのもとにたどり着きました。

いま、もしかしたら、大変困難な時代であるかもしれない。この日本において、イエス・キリストを信じ、神様を信じ、そして、生涯を信者として生きるということは、易しいことではありません。それを、みなさんはしている。大変立派なことだと思います。

お互いに助け合わないといけません。信仰というのは、その人と神様の関係ですが、神様を信じる者同士が、励まし合うことによって、わたしたちの信仰は、より確かな、より強いものになっていきます。

年に1回の『こどものミサ』は、そのために、非常に大切な、素晴らしい機会であると、わたくしは思います。今日、カテドラルに集まってくださったことを、本当に嬉しく、感謝しております。

## 聖書朗読箇所

第一朗読 テモテの信徒への手紙Ⅱ106-14

〔愛するテモテへ〕 わたしが手を置いたことによってあなたに与えられている神の賜物を、再び燃えたとさせるように勧めます。神は、おくびょうの霊ではなく、力と愛と思慮分別の霊をわたしたちにくださったのです。だから、わたしたちの主を証しすることも、わたしが主の囚人であることも恥じてはなりません。むしろ、神の力に支えられて、福音のためにわたしと共に苦しみを忍んでください。神がわたしたちを救い、聖なる招きによって呼び出してくださったのは、わたしたちの行いによるのではなく、御自身の計画と恵みによるのです。この恵みは、永遠の昔にキリスト・イエスにおいてわたしたちのために与えられ、今や、わたしたちの救い主キリスト・イエスの出現によって明らかにされたものです。

キリストは死を滅ぼし、福音を通して不滅の命を現してくださいました。この福音のために、わたしは宣教者、使徒、教師に任命されました。そのために、わたしはこのように苦しみを受けているのですが、それを恥じていません。

というのは、わたしは自分が信頼している方を知っており、わたしにゆだねられて

いるものを、その方がかの日まで守ることがおできになると確信しているからです。キリスト・イエスによって与えられる信仰と愛をもって、わたしから聞いた健全な言葉を手本としなさい。あなたにゆだねられている良いものを、わたしたちの内に住まわれる聖霊によって守りなさい。

福音朗読 ルカによる福音書13 22-30

イエスは町や村を巡って教えながら、エルサレムへ向かって進んでおられた。すると、「主よ、救われる者は少ないのでしょうか」と言う人がいた。イエスは一同に言われた。「狭い戸口から入るように努めなさい。言っておくが、入ろうとしても入れない人が多いのだ。家の主人が立ち上がって、戸を閉めてしまってからでは、あなたがたが外に立って戸をたたき、『御主人様、開けてください』と言っても、『お前たちがどこの者か知らない』という答えが返ってくるだけである。そのとき、あなたがたは、『御一緒に食べたり飲んだりしましたし、また、わたしたちの広場でお教えを受けたのです』と言いだすだろう。しかし主人は、『お前たちがどこの者か知らない。不義を行う者ども、皆わたしから立ち去れ』と言うだろう。

あなたがたは、アブラハム、イサク、ヤコブやすべての預言者たちが神の国に入っているのに、自分は外に投げ出されることになり、そこで泣きわめいて歯ぎしりする。そして人々は、東から西から、また南から北から来て、神の国で宴会の席に着く。そこでは、後の人で先になる者があり、先の人で後になる者もある。」

[説教へ戻る](#)